

12. 水辺のビオトープをつくろう！

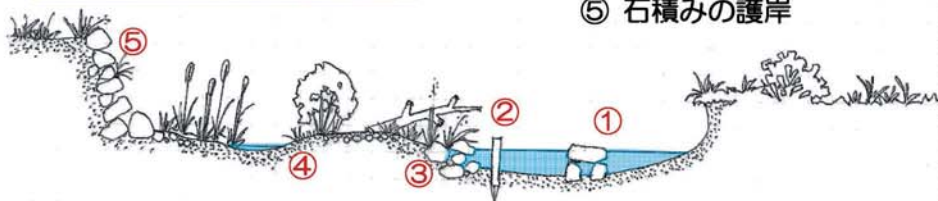
○ねらい：川や池の水辺は、多様な生きもののすみかや休憩場所になっています。でも、水辺がコンクリートにおおわれていたり、陸から水面までが急な崖になっていたりすると、生きものが近よらない場所になってしまいます。陸から水底までがなだらかにつながっている「エコトーン」をつくったり、石や木などですき間がたくさんある水辺をつくって、多様な水生生物や野鳥・小動物が集まる環境づくりをしましょう。そして、つくる前と後で、水辺の生きものに、どのような変化があるか、生きもの調べもあわせて行いましょう。

●対象地：学校ビオトープ・河原など

生きものにとって、すみやすい水辺の環境



- ① 魚のアパート
- ② 止まり木
- ③ なだらかな水ぎわ
石積み水ぎわ
- ④ 湿地・水たまり
- ⑤ 石積みの護岸



水辺の環境づくりの工夫

① 魚のアパートをつくる

木の枝や、穴のあいたコンクリートブロック、すき間のある石組みなどを水底に置くと、小魚のかくれがや産卵場所になります。

② 止まり木をつくる

倒木を水ぎわに倒しておいたり、水中に木杭を打ち込んでおくと、野鳥の休憩場所や餌を狙う場所となり、またトンボなどの止まり木にもなります。

③ なだらかな水ぎわをつくる

水ぎわをなだらかにすると、水鳥が楽に近づいたり、いろいろな種類の植物が育ちやすくなります。水ぎわの植物は魚や水生昆虫のかくれがや産卵場所になります。



④ 湿地や水たまりをつくる

水辺にゆとりがあれば、湿地植物や木を植えたり、水たまりなどをつくってみましょう。陸地と水面が複雑に入り込んで、多様な水辺環境ができていきます。

⑤ 石積み護岸をつくる

大きさの違うすき間がたくさんある石積み護岸をつくると、昆虫や小動物にとって、格好のすみかになります。

